



平成 28 年 1 月 14 日

各 位

会社名 株式会社 松屋  
代表者 代表取締役社長執行役員 秋田 正紀  
(コード番号 8237 東証第一部)  
問合せ先 総務部 I R 室担当課長 関 泰程  
(TEL. 代表 03-3567-1211)

## 営業外費用および特別損失の発生ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 2 月期第 4 四半期会計期間（平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日）において、下記のとおり営業外費用および特別損失を計上する見通しとなりましたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 7 月 13 日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外費用および特別損失の計上について

##### (1) 連結決算

当社の連結子会社である株式会社アターブル松屋が東京都豊島区に保有する「リュド・ヴィンテージ目白」の固定資産について、収益性の低下がみられたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失を計上いたします。これにより、平成 28 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間において、減損損失 410 百万円を特別損失として計上する見通しです。

##### (2) 個別決算

上記の減損損失により、平成 28 年 2 月期第 4 四半期会計期間において、株式会社アターブル松屋に対する融資について、貸倒引当金繰入額 661 百万円を営業外費用に計上するとともに、当社の連結子会社である株式会社アターブル松屋ホールディングスに対する投資について、子会社株式評価損 316 百万円を特別損失に計上する見通しです。なお、この貸倒引当金繰入額および子会社株式評価損につきましては、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません。

## 2. 業績予想の修正について

平成 28 年 2 月期通期業績予想数値の修正（平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日）

### （1）連結

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	91,000	2,900	2,900	1,700	32円09銭
今回発表予想(B)	91,000	2,600	2,600	1,000	18円88銭
増減額(B-A)	—	△300	△300	△700	
増減率(%)	—	△10.3	△10.3	△41.2	
(ご参考) 前期通期実績 (平成 27 年 2 月期)	81,630	2,179	2,274	1,304	24円62銭

### （2）個別

（金額の単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	80,000	2,900	1,700	32円06銭
今回発表予想(B)	80,000	2,300	1,000	18円86銭
増減額(B-A)	—	△600	△700	
増減率(%)	—	△20.7	△41.2	
(ご参考) 前期通期実績 (平成 27 年 2 月期)	70,881	2,011	1,176	22円18銭

### 修正の理由

当期の業績につきましては、主力の百貨店業では国内のお客様による消費が堅調に推移するとともに、訪日外国人の増加により免税売上高も引き続き前年を上回っており、百貨店業の売上高はほぼ計画通りに推移しております。一方で飲食業におきましては、平成 26 年 12 月に婚礼宴会部門の「リュド・ヴィンテージ目白」を開業し、売上高は前年を上回っておりますが、これに伴う販管費の増加等により営業利益は計画を下回る推移となっております。

第 3 四半期（累計）の実績ならびに足元の業績動向、上記の営業外費用および特別損失の発生を踏まえ、通期の業績予想を見直した結果、連結の営業利益、経常利益、当期純利益、および個別の経常利益、当期純利益はそれぞれ前回予想を下回る見通しとなりましたので、業績予想を修正いたします。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上